

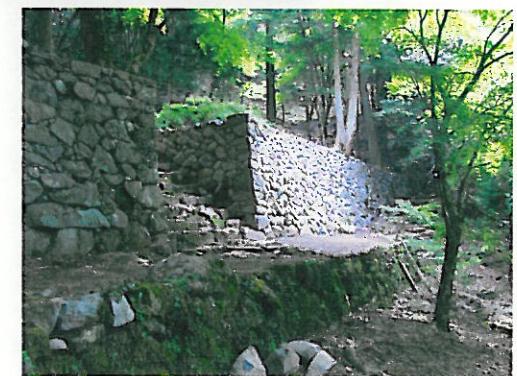
## 甦る修驗の至宝



求菩提山



甦る参道



甦る石垣

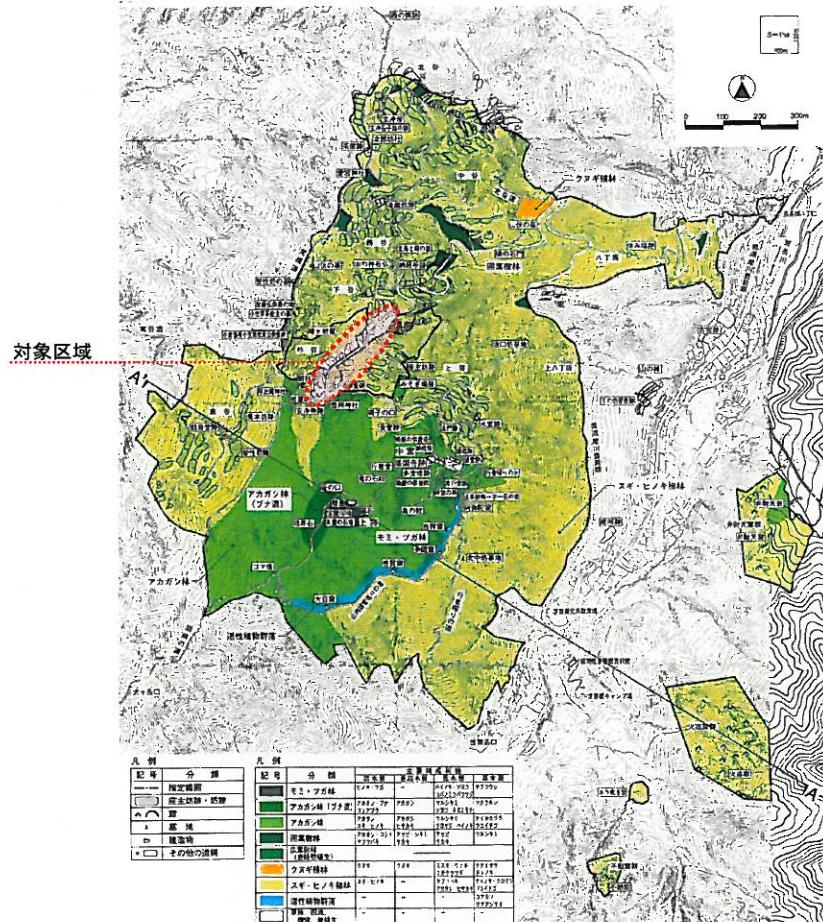
株式会社アーバンデザインコンサルタント

### ■修驗の山 求菩提山とは

求菩提山は、中興の祖といわれる頼巣（12世紀）が護国寺の伽藍や修法の体系・祭式などを整備して、天台修験の山としての基礎を作り上げたとされる。

明治維新を迎え、慶應4年（1868）に神祇官が復活し、祭政一致を掲げて「神仏判然令」が発布される。神仏分離の政策は廃仏毀釈運動につながり、求菩提山においても政府の方針から明治5年（1872）に「修験道廃止令」が出され、多くの山伏は山を降りた。

現在残されている坊の石垣等の遺構は大部分が近世の所産である。



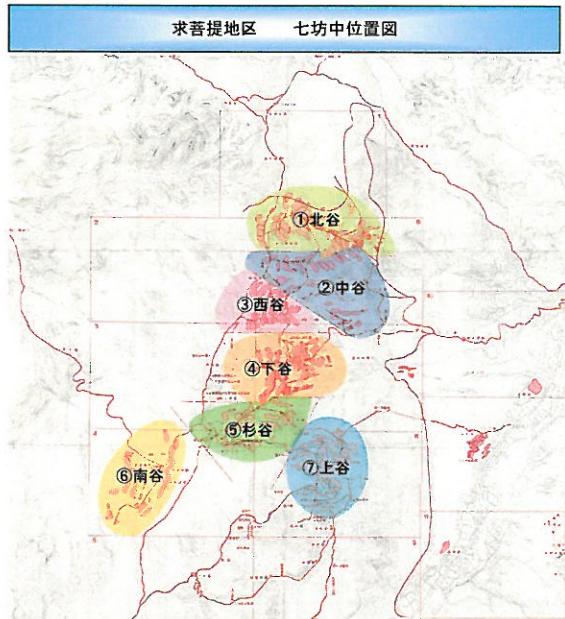
### ■求菩提山の特徴的な遺構

求菩提地区には数多くの修験道にまつわる遺構や遺物を見ることができる。それらは生活に係わる遺構、修験に係わる遺構、道遺構などに大別できる。

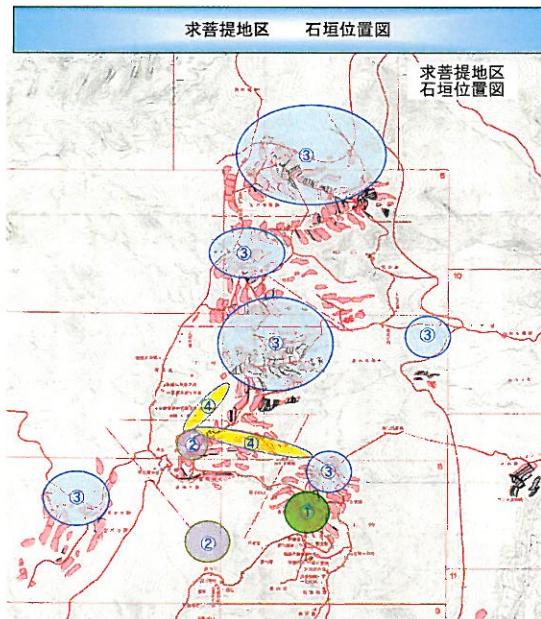
まず生活に係わる遺構のうち、坊跡は“求菩提五百坊”的呼び名のとおり、山内の至る所で痕跡を見ることができます。それらは大きく7グループに分かれており上谷坊中、杉谷坊中、南谷坊中、西谷坊中、中谷坊中、北谷坊中、下谷坊中と称されている。これらは坊中の道で結ばれ、共通の道が尾根道である。修験に係わる遺構として重要なものは、護国寺跡、上宮である。道遺構として重要なものは、参道（表参道く構の石門～中宮）、尾根道、鬼の石段）、修行に使われた行場の道（山内諸道巡りの道、不動窟への道、求菩提山と下界をつなぐ道）、坊中の道である。

地区	分類	概要	
求菩提山	生活に関わる遺構	坊中、坊、座主坊跡、水室跡、構の石門、庚申塔	
	修験に関わる遺構	窟、みそぎ場跡、ゴマ場、結界石、木ラ吹き岩、獅子の口、院、堂社、墓、磐座、護国寺、鬼神社、山の神	
道遺構	参詣の道	護国寺への参道	
	修験の道	山内諸堂めぐりの道	
	生活の道	坊中を結ぶ道	

## ■修験史跡の分布(坊・石垣・道)



坊跡は生活の場で“求菩提五百坊”的呼び名のとおり、山内の至る所で痕跡を見る事ができる。それらは大きく7グループに分かれており上谷坊中、杉谷坊中、南谷坊中、西谷坊中、中谷坊中、北谷坊中、下谷坊中と称されている。現在、300強の坊跡が確認できる。



石垣には①伽藍の石垣、②神社の石垣、③坊跡の石垣、④道路の石垣跡がある。大半は近世以降の所産だが、一部に中世末に遡る可能性のあるものがある。積み方には、大型石材を腰石状に配し、垂直に平積みするもの・野面積み・角石を算木積みにするもの・谷落積み等が観察できる。石材は山に所在する安山岩系の石を用いた。



道遺構として重要なものは、参道（表参道く構の石門～中宮>、尾根道、鬼の石段）、修行に使われた行場の道（山内諸道巡りの道、不動窟への道、求菩提山と下界をつなぐ道）、坊中の道である。求菩提地区的参道としては、(a) 表参道（構の石門から安淨寺跡への道）、(b) 安淨寺跡から中宮への道、(c) 鬼の石段、(d) 尾根道がある。



## ■史跡地の課題

歴史
■絵図に見る求菩提山

山の斜面を活用し、300以上の中が存在していた。

■修験道廃止令による山伏の退散
明治維新を迎え、慶應4年（1868）に神祇官が復活し、祭政一致を掲げて「神仏判然令」が発布される。神仏分離の政策は廃仏毀釈運動につながり、明治5年（1872）に「修験道廃止令」が出され、多くの山伏は山を降りた。

■自然放置による山の荒廃
修験の山は放置され、自然災害や樹木の成長により山は荒れ、坊の建物は損壊し、坊跡は樹木が繁茂し石垣の崩壊等が随所で見られるようになっていた。


石垣
■自然災害による変形、崩落
豪雨等の自然災害に対して脆弱な石垣は、崩落した。

■樹木成長による変形、崩落
樹木特にスギ、ヒノキの成長により山内の坊跡は樹木が巨木化し、石垣の変形や崩落が随所で見られるようになった。


樹木
■倒木
台風などの自然災害により、随所で風倒木が発生し、山奥からの木材の持ち出しありで、散乱した状況が続いている。

■樹木の巨木化
山伏が山を降り、管理されない状況の中、樹木は随所で巨木化し、坊跡一面巨木化しているところも見受けられる。

■草木繁茂
樹木の巨木化だけでなく、草木も繁茂し、足の踏み場もない状況が多く見られるようになった。


参道
■洗掘や石段崩落
集中豪雨による参道をはじめとする傾斜地での道の洗掘が随所で発生している

■水路の閉塞
落葉や風倒木の堆積により、水路の閉塞が発生し、オーバーフローした水が参道を駆け下り、参道の崩落の要因となっている。

■埋設管の露出
集中豪雨等により表面の土が洗掘され、配水管の露出が見られるところが発生している。


## ■検証

史跡地での歴史的景観を構成する石垣、樹木、参道について検証を行った。樹木は歴史的景観構成に不可欠な要素であるが、一方で史跡への悪影響が見え隠れする。石垣と樹木との関係を注意深く検証すると、石垣の変形の主要因になっている場合と石垣の結束をより強固にしている面もある。また、樹木伐採後の史跡の安定に問題はないか、伐採した樹木は用意に搬出可能かなどの検証を行った。



## ■石垣

石垣には大きく 2 タイプの組み方が確認できた。一つは熟練した石工により、石の形状、表、裏の使い分けを行い、より強固に石組みがなされているもの、もう一つは棚田の石垣に見られるようなさほどどの技術がなくても普通に石を積み上げたタイプのものである。前者については、石組の修復前に番号で位置を性格に表示し、それを元に罪な押しを行った。後者のほうは、全体の雰囲気を尊重して復旧を行うこととした。

## ■樹木

樹木と石垣との関係を見ると、樹木の根が石組みを捕まえより強固にしているものと、石垣の結束を弱めているものとがあることが把握でき、前者の樹木については、石垣に影響ある根茎のみ除去し、根茎成長抑制シートを石垣と樹木との間に敷設し、石垣の復旧を行うこととした。後者の樹木については伐採を行い、石組みの見直しを行うこととした。

## ■参道

参道では、その特徴はである土の感じを維持しながら復旧することを最優先し、土に特殊な強化材を配合し、土の色合いや素材感を残す方法を行った。さらに、施工時の石との取り合い部分の弱いところをより丁寧に施工することを心がけ、施工監理時点で指導を行うこととした。

## ■創意工夫のポイント

石垣



参道

■施工前から竣工まで

石垣



施工前



施工中



竣工



参道



施工前



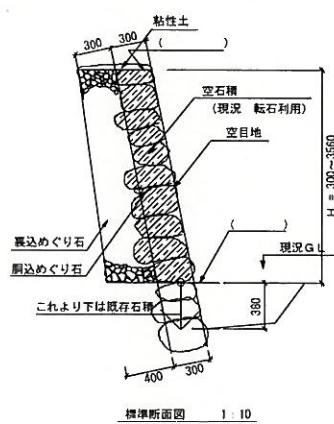
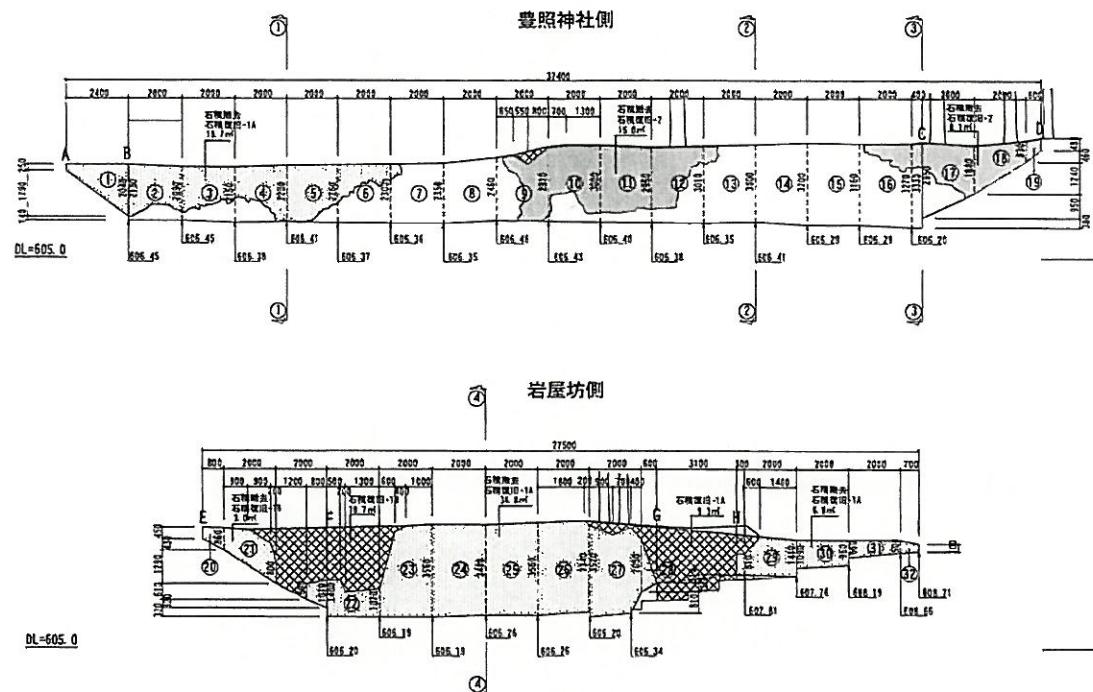
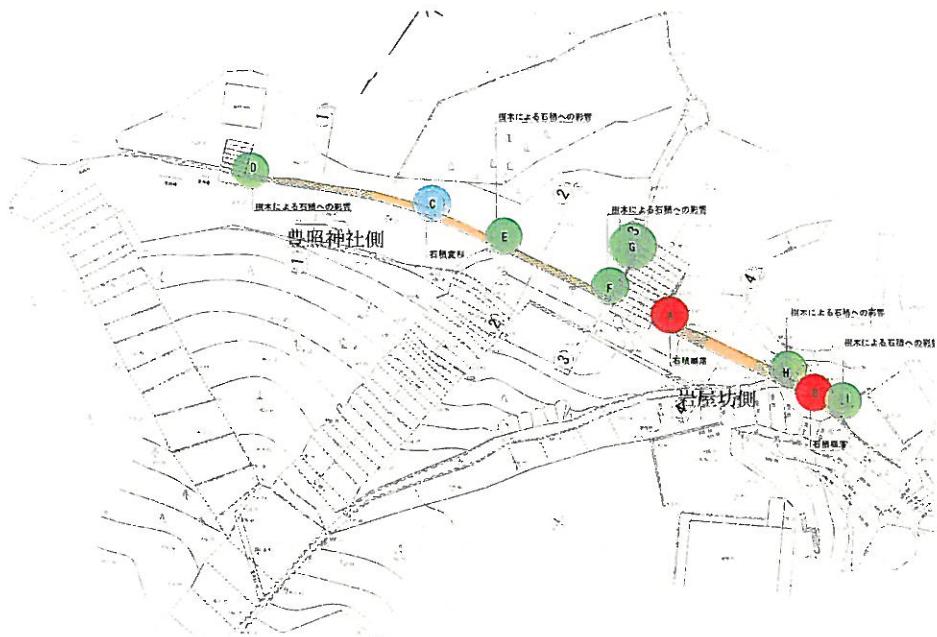
施工中



竣工



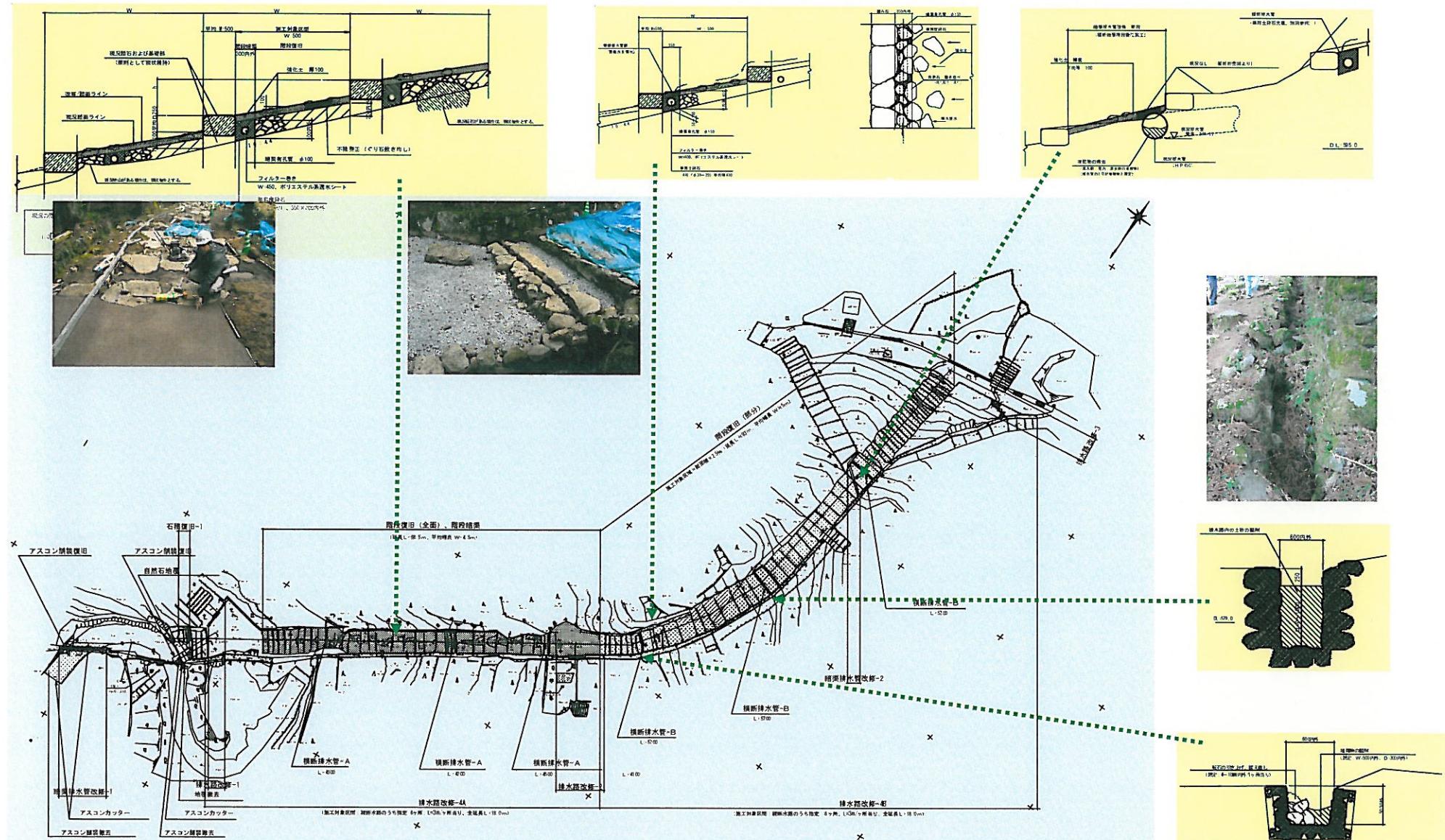
### ■石垣復旧計画図



設計部門

## 求菩提山史跡修復整備

## ■参道復旧計画図



## ■竣工後の景観

参道



石垣

